

# 令和8年産 コメ通信

第4号（令和8年6月12日）

【発行】  
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課  
（電話：0186-62-1835）

## 茎数確保に向けた浅水管理の徹底を！！

### 1 気象経過と生育状況

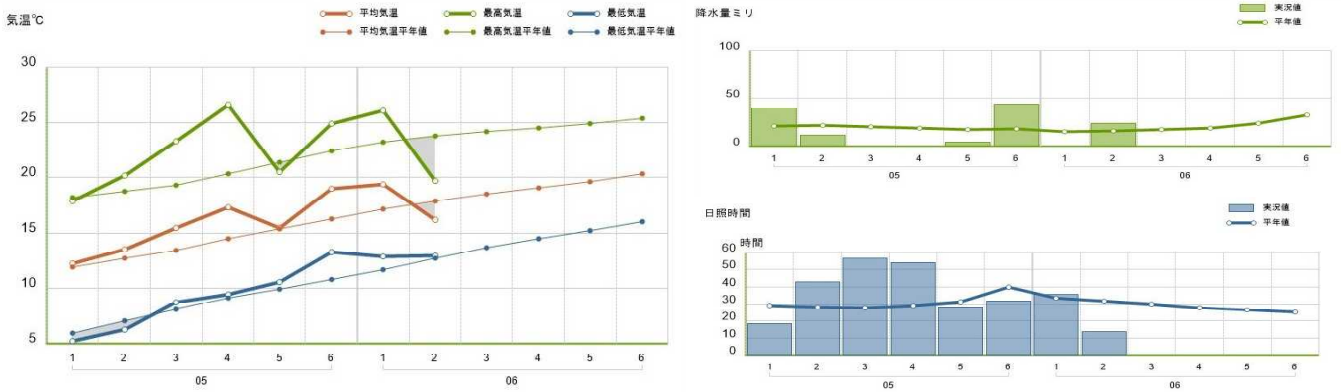


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

#### 【気象経過】

○5月2半旬から4半旬の気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多く推移しました。また、5～6半旬は、曇天や断続的な降雨があったため、日照時間がやや少なくなりました。6月2半旬は、平年より平均気温・最高気温が低い日が続きました（図1）。

#### 【田植え時期の気象】

- 管内の田植え作業は、始期が5月14日（平年早1日）、盛期が5月21日（平年並）、終期が5月28日（平年並）となりました。
- 田植え翌日から5日間の移動平均気温は、作業期間をとおして、中苗の適温とされる14℃を概ね上回っており、田植え後の活着は良好だったと考えられます（図2）。また、田植え後も気温が高く推移したため、活着後の生育も良好だったと考えられます。
- 一時的に気温が低下した日や風が強い日に田植えをしたほ場では、代枯れが見られました。

#### 【生育状況（定点調査結果）】

- 6月10日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈が平年よりも短く、茎数が多く、葉数は多くなりました（表1）。各地点で生育に差がみられました。
- 生育期間をとおして、気温の日較差が大きい日が多く、分けつの発生が促進されたことや、葉数が進んだことで、平年よりも茎数が多くなったと推察されます。一方で、深水管理になっていたほ場では、水温の上昇が抑えられたため、分けつの発生が緩慢になったと考えられます。

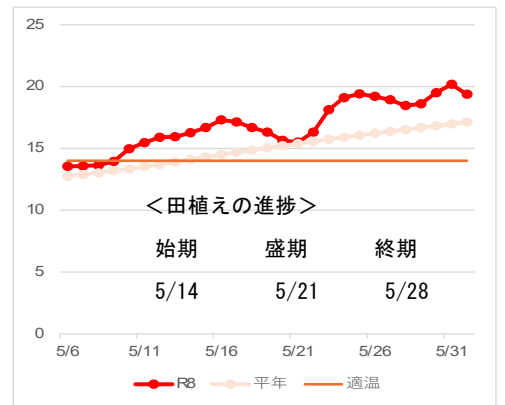


図2 田植え翌日から5日間の移動平均気温の推移（アメダス鷹巣）

表1 定点調査結果（6月10日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)
本年	25.7	193	6.6
平年	26.8	174	6.4
前年	23.5	148	5.9
平年比・差	96%	111%	+0.2
前年比・差	109%	130%	+0.7

## 2 当面の水管理

### 【茎数確保に向けた水管理】

- 分げつ発生は、日平均水温が23～25℃で、昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。このため、かん水は水温の低い早朝に短時間で終わるようにし、日中は止め水とすることで、地温と水温の上昇を促進します。
- 活着後は基本的に浅水管理（水深3～5cm程度）とし、水温と地温を高め、分げつの発生を促進しますが、日中の最高気温が15℃以下の低温時は深水にします。

### 【異常還元（ワキ）対策】

- ほ場に足を踏み込んだ時に勢いよく気泡が発生し、下葉の黄化や赤褐色斑点が多く見られる場合は、落水や間断かん水を行い、根の健全化を図りましょう。
- 落水する場合は、除草剤やオリゼメート粒剤等の散布後日数に注意してください。

### 【適期の中干しによる弱勢茎の抑制】

- 中干しを行うことで、弱勢茎（穂になりにくい茎）の発生が抑制されることに加え、受光体勢が良くなるため、倒伏軽減効果が期待できます。
- 目標穂数と同数の茎数（70株植では1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。中干しの期間は7～10日ほどで、軽く足跡が付く程度（亀裂が1～2cm程度）を目安とします。
- 溝掘りを行うことで、その後の水管理や秋の刈取作業を円滑に行えるようになりますので、積極的に行ってください。

## 3 病害虫防除対策

### 【葉いもち防除】

- 病害虫防除所の発生予報（令和8年5月26日発表）では、いもち病の感染時期は「やや早い」と予想されています。水面施用剤（オリゼメート粒剤）を使用する場合、散布時期を逃さないように計画的な作業実施を検討してください。
- 初期の発病を抑えることで、その後の葉いもち発生量及び穂いもちの伝染源を減少させることができます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、オリゼメート粒剤を6月15日頃（6月12～18日）に10aあたり2kg散布します。6月15日以降に発病を確認した場合は、オリゼメート粒剤の散布に加え、予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤またはノンブラス剤）の茎葉散布を行ってください。その後、必要に応じてビーム剤を追加散布してください。
- オリゼメート粒剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れないようにします。また散布後7日間は止め水とし、かけ流しや落水は行いません。
- 補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分してください。

### 【斑点米カメムシ類対策】

- 病害虫防除所による発生予報では、斑点米カメムシ類の発生時期は「早い」、発生量は「平年並」（アカスジカスミカメ：やや少ない、アカヒゲホソミドリカスミカメ：やや多い）と予想されています。
- 残草したノビエやホタルイ類等は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。草種に応じて中・後期剤を適切に散布し、雑草対策を徹底してください。また、近年は高温により雑草の生育が早まる傾向にあるため、雑草の生育状況を確認し、処理時期が遅れないようにしましょう。
- 斑点米カメムシ類の生息地を減らすため、畦畔や農道に加えて休耕田や雑草地を対象に、6月上旬から出穂10～15日前まで数回、草刈り作業を地域でまとまって行ってください。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで～次回発行は6月下旬頃～